

覘天變

〔大鏡花出〕つぎのみかど花山院天皇と申き、略中永觀二年甲申八月廿八日位につかせ給ふ、御歲十七、寛和二年丙戌六月廿三日の夜、あさましく候し事は、人にもえられさせ給はで、みそかに花山寺におはしまして、御出家入道させ給へりしとぞ、御とし十九、よをたもたせたまふ事二年、其後廿二年はおはしましき、あはれなる事はおりおはしましけるよは、ふちつぼのうへの御つぼねの小どよりいでさせ給ひけるに、有明の月のいみじうあか、りければ、見證にこそありけれ、如何あるべからんとおほせられけるを、さりとととまらせ給ふべきやう侍らず、略中さて、つちみかどよりひんがしさまにおはしますに、晴明がいへのまへをわたらせ給へば、みづからのうへにて、手をおびたゞしくはたゞとつなり、みかどおりさせ給ふと見ゆる天變ありつるが、すでになりにけりと見ゆるかな、まいりて奏せん、車にさうぞくとらせよといふこゑきかせ給ひけんは、さりとあはれにはおぼしめしけんか、かつくしき神一人、だいにまいれと申ければ、めにはみえぬものゝとをしあけていづ、御うしろをや見まいらせけん、たゞいまこれよりすぎさせおはしますといらへけりとかや、其家は、つちみかどまぢぐちなれば、御みちなりけり、

〔日本新國史十二〕花山院御宇、寛和元年乙酉八九月之間、辰星伏、客星之旁、其客星之餘、如鬼火之移、陰陽寮及神祇官等、以所司數度、雖經密奏、敢無勅謹之事、同二年丙戌六月二十二日、天皇及夜半、自貞觀殿之掖門、密幸於花山寺、隨奉之臣、唯藏人藤原通兼、法臣嚴久而已、帝壽纔十九歲、未曾有之御法樂也、其夜、天文博士安倍晴明、同時雷不盡其術云々、

〔日本紀略十一〕寛弘三年五月十日辛亥、右少辨藤原廣業、於内裏、爲藏人式部丞藤原定佐打損面了、十一日壬子、近日天文道依變、異頻、奏近臣内亂之由、蓋其徵歟、

〔小右記〕長和四年十二月八日甲申、資平從内示送云、有御惱氣、略中申時、歲星經天、十日上二ヶ變異